

図書案内

2018年 7・8月号

担当 3-2 砂子 3-2 勝山

「暑い夏に熱い恋をしよう!」ということで、今回は

“ハッピーエンド”な恋愛小説 を特集します。

切ない恋愛に胸が締め付けられ、読むのが苦しくなったとしても大丈夫。なぜなら“ハッピーエンド”な本ばかりだから。時間があるときに図書館に足を運ぼう。きっとすばらしい本があなたの心を満たしてくれるでしょう。



『スプートニクの恋人』 村上春樹／著

村上春樹作品にはおなじみの「あちら側(異界)」と「こちら側(現実世界)」がある話。「ぼく」の視点から語られる登場人物のすみれがとても魅力的です。

22歳の春にすみれは生まれて初めて恋に落ちた。広大な平原をまっすぐ突き進む竜巻のような激しい恋だった。それは行く手のかたちあるものを残さずなぎ倒し、片端から空に巻き上げ、理不尽に引きちぎり、完膚なきまでに叩きつぶした。

「スプートニク」って何？

旧ソ連が打ち上げた最初の人工衛星。1957年10月4日に打ち上げられたスプートニク1号は地球を周回する人類最初の人工衛星であった。1961年3月のスプートニク10号まで打ち上げられそれ以降はコスモスシリーズとなった。2号にはライカと名付けられた犬が載せられるなど、スプートニク計画は、有人宇宙飛行の実験も兼ねていた。その成果を基に、1961年4月12日にガガーリン(Y. Gagarin)がボストーク1号で人類初の宇宙飛行に成功した。スプートニク1号の成功は、宇宙開発に絶対の自信を持っていたアメリカに大きな衝撃(スプートニクショック)を与え、その後のアメリカの宇宙政策のみならず東西冷戦への対応にまで大きく影響した。

【記事出典】天文学辞典 <http://astro-dic.jp/sputnik-satellites/>



『私の男』 桜庭一樹／著

物語は主人公のOL・腐野花が一流企業勤務の男と結婚するシーンから始まる。しかし、この本は時系列を遡る章構成になっているため、結末であるハッピーエンドから話がはじまる。読み返していくうちに明らかになる父と子の関係を見事な描写で描ききった一冊。読み終えた後、冒頭のシーンを是非もう一度読んでほしい。きっと受ける印象が変わるはずである。



『潮騒』 三島由紀夫／著

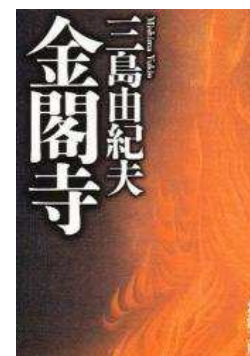
「三島由紀夫って名前は知ってるけど難しいんじゃない……？」と思っている人にぜひおすすめしたい一冊。三角関係、引き裂かれる二人、秘密の手紙のやりとりなどなど、恋愛小説の面白さがすべてつまっていて、まるで王道の少女マンガのような魅力あふれる作品となっている。文学マニアで恋愛小説に興味のないキミにぜひ読んでほしい。



『潮騒』とともにおすすめしたい一冊

『金閣寺』 三島由紀夫／著

燃えるような熱い思いを持つ対象は人に対してだけとは限らない。主人公の〈私〉が金閣寺に対してとった行動とは？ 主人公の立場からすればハッピーエンドのストーリー。読みやすい文体で書かれているので、夏休みに挑戦してみては？



『放課後の音符』^{キイノート} 山田詠美／著

不安定な恋心に揺れる17歳の女子高生を主人公にした短編小説集です。それぞれの主人公が美しい大人に憧れ、そして17歳ながらにどうやって大人に近づくか暗中模索します。そんな彼女たちの生き生きとした放課後に密着し、かたちの違う恋を描き出しています。高校生の今、ぜひ読んでほしい本です。

瞳の光に自信が持てなきゃ何も塗ってないところに赤い口紅なんて引けやしない。だから、そういうことの出来る大人の女の人に、私はいつも憧れる。

『放課後の音符』とともにおすすめしたい一冊

『ぼくは勉強ができない』 山田詠美／著

主人公はサッカー好きの17歳男子高校生。勉強はできないが女性にはモテモテ。そんな彼や周囲の人々の型破りな姿を描いた物語。たとえ周囲と違っていても、自分の心に素直になればハッピーに！心に刺さる名言も数多く書かれています。真面目な日常生活からちょっぴり離れたい人におすすめ。

